

# 農産FAX情報 第2号

令和元年6月1日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

## 1 秋まき小麦

(1) 出穂始以降の追肥について

○植物成長調整剤を散布したほ場に関しては、出穂区の生育に合わせて、追肥を検討してください。  
追肥量に関しては、生育状況にもよるので、JA 又は普及センターに相談してください。

(2) 赤かび病防除

○今年の生育は、平年より早く進んでいます。開花始期を見逃さないようほ場をこまめに観察し、予防的防除に努めましょう(図1、表1)。

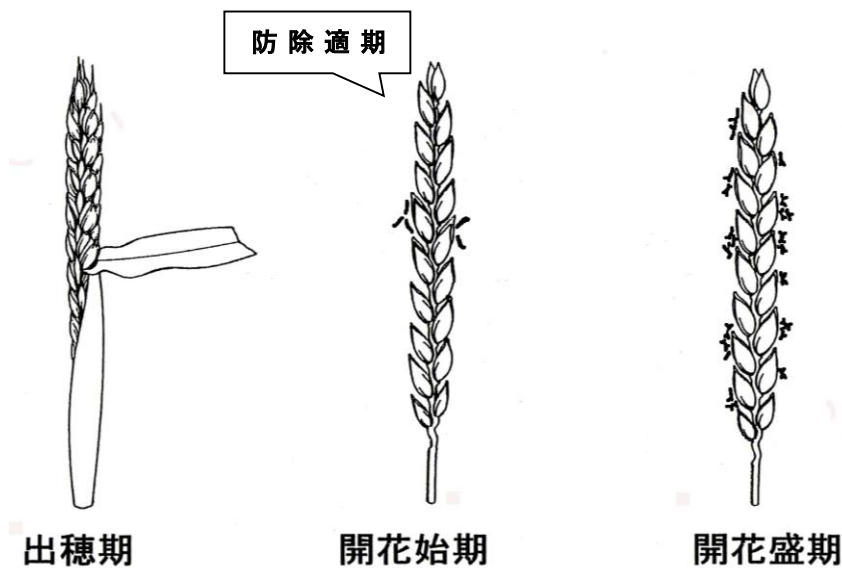


図1 赤かび病の1回目防除適期

表1 赤かび病防除を中心とした防除体系例

	防除時期	薬剤名	使用倍率	使用回数	使用時期 収穫前	注意事項
必須	開花始期	シルバキュア フロアブル	2,000倍	2回以内	7日前迄	うどんこ病、赤さび病にも効果あり。 ※注2
必須	前回防除の 7日後	ベフトップジン フロアブル	800～ 1,000倍	出穂期以降は 1回	14日前迄	※注1
必須	前回防除の7 日後	シルバキュア フロアブル	2,000倍	2回以内	7日前迄	うどんこ病、赤さび病にも効果あり。 ※注2
臨機	天候等に応じて	チルト乳剤25	1,000～ 2,000倍	春期以降は 3回以内	3日前迄	1,000倍使用が望ましい 。 ※注2

※注1：イミノクタジン酢酸塩を含む薬剤(ベフトップジンフロアブル等)の総使用回数は3回。但し、出穂期以降の使用回数は1回以内

※注2：耐性菌の出現を避けるため、DMI剤(シルバキュアフロアブル、バラライカ水和剤、チルト乳剤25)の総使用回数は2回以内とし、連用は避けることが望ましい

## 2 てんさい

### (1) 中耕作業の注意点

- 干ばつ傾向が続くの場合、中耕作業は控えましょう。
- 爪を深く入れすぎると根を痛めるので、中耕深度に注意しましょう
- 株本の葉柄基部に土壌が付着すると根腐病発生を助長するので注意しましょう。

### (2) 除草剤散布の注意点

- 除草剤散布は、雑草生育初期に行いましょう。気温が上がる日中は避け、早朝または夕方の涼しい時間帯に作業を行いましょう。
- 直播栽培と移植栽培では使用基準が異なります。ラベルをよく確認し適正に使用しましょう。

## 3 ばれいしょ

### (1) 害虫防除

- 萌芽以降、高温乾燥が続くと、アブラムシ類・ナストビハムシの発生が早まることがあります。気象状況に注意し、初期発生を確認したら、早めに防除を行いましょう。

## 4 豆 類

### (1) 除草剤散布

- 土壌処理剤散布は播種直後～出芽前までに行いましょう。
- 土壌処理剤散布後、他の除草剤を近接散布(10 日以内)した場合、薬害を生じる恐れがあるので注意しましょう。

### (2) 中耕

- 中耕を行う場合は、除草剤の残効期間に注意し、日中の暖かい日に行いましょう。

**農薬は適正に使用し、生産履歴は忘れずに記帳しましょう！**

**農薬散布時のドリフトに注意！**

**機械の点検時はエンジンを止めて、農作業事故防止！**